

講義名	自己発見とキャリア開発 B (K31)			授業形態	
担当教員	高橋 宏斗	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

第1 semester の「自己発見とキャリア開発A」のクラスを継続して、クラスメンバーや担当教員との相互啓発的環境の中で様々な活動を行う必修科目です。学歴前日までのクラスが「気づきの教育」で得た成果を含む展示を行います。授業の前半では、この展示のための企画立案・展示物作成等を行うことが中心になります。授業後半では、「自己発見とキャリア開発A」で考えた「学びの道筋（キャリアビジョン）」が順調に進んでいるかどうかを確認し、以降の学びの道筋を考えます。

到達目標

「学歴前の展示」に取り組む中で、グループや個人で設定した課題に取り組み、課題を達成することを通して、「コミュニケーション力」「常識力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」など、本学で学ぶために不可欠であり、かつ社会に出てからも必要な基礎能力を向上し続けることができるようになる。「自己発見とキャリア開発A」で考えた「学びの道筋（キャリアビジョン）」が順調に進んでいるかどうかを確認して、新たに計画を作成することを通して、自ら目標や課題を設定して実行することができるようになる。

提出課題

全クラス共通の「提出課題」としては「学歴前展示」を作成します。クラスごとに課題が異なりますので、担当教員の指示に従って下さい。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「学歴前展示」については、クラス内で発表してクラス学生相互で啓発し担当教員からの講評・解説の機会を設ける予定です。さらに、クラスを超えて展示・参観・相互評価の機会を設けたいとも考えています。さらにWeb会議において、学外の方からの感想やご意見も頂戴する機会もあります。通常の授業における「教員から学生へのフィードバック」に止まらず、学生相互や外部からのフィードバックを受けることができます。

評価の基準

基本的には次の通りであるが、クラスにより差異がある。詳しくは担当教員から知らされます。平常点（出席をした上での授業中などの活動状況）50点、取り組んだ課題の出来栄50点として、合計100点とする。なお、学歴前日・当日も出席すべき日となっているので注意してください。

履修にあたっての注意・助言他

「自己発見とキャリア開発A」のクラスが維持されます。指定されたクラスで受講して下さい。

教科書

参考図書

その他

必要に応じて配布します。

授業計画

このシラバスは2022年2月に対面授業を前提に作成している。新型コロナウイルス感染症の状況によっては内容が修正される可能性があります。担当教員ならびにクラスの状況により、進行には差異があります。
1～8回 学歴前日の取り組み
学歴前日ならびに当日の参加
9回 学歴前の振り返り
10回～13回 個別面談が予定されています
14回・15回 2年以降の「学びの道筋（キャリアビジョン）」の作成と発表

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

学歴ならびに大学設置基準では1回の講義について4時間の自己学習が必要とされています。学歴前の準備のためのグループでの授業時間外活動、2年以降の「学びの道筋（キャリアビジョン）」の作成のための個人作業などが必要となります。クラスにより内容は異なりますので、担当教員の指示に従って下さい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「自己発見とキャリア開発A」に引き続き、この科目でも、向上し続けることができるようになる6つの「基礎能力」と、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目は次のように関連しています。「コミュニケーション力」「常識力」「学び力」の向上は「『ネアカのひのひへこたれず』の精神をもった人材」に繋がります。「気づき力」と「学び力」の向上は「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」に繋がります。「気づき力」と「創造力」の向上は「新しい視点と豊かな発想を持った人材」に繋がります。「コミュニケーション力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」の向上は「自主・自立の精神を持った人材」に繋がります。「コミュニケーション力」と「グループワーク力」の向上は「仲間と協働して、物事を成し遂げることができる人材」に繋がります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この授業の運営は、学生間ならびに、学生・教員間の相互啓発的な刺激の下に行われます。常に双方向授業として行われます。

実務経験の有無及び活用

この授業の担当教員の中には実務経験のある教員も多くなります。実務経験のある教員は、折に触れ自身の経験に即した指導を行い、学生がこの科目の目標を達成するための援助をします。

備考